

Buenos Dias de CHIAPAS 第8弾

ラテンアメリカ初「国際ラテンアメリカ・マリンバコンクール＜安倍圭子先生を招いて＞」を、UNICACH大学とチapas州の共催で行いました。今回は約2週間にわたるコンクールやコンサートのエピソードの前半をお届けします。

＜安倍圭子先生来基に至るまで＞

UNICACH大学に働き始めた2009年3月、有賞部門先生が特別講師として来基された時、「安倍圭子氏が、マリンバの聖地であるチapasで演奏されたら、どんなに素晴らしいか」と話されました。

クラシックマリンバをソロ楽器として高められた、ハイオキニアの第一人者である安倍先生を迎えることは、かけがえのない経験を得ると共に、中南米におけるマリンバの向上の礎となるに違いないと思いました。そんな思いから安倍先生を招聘する動きが始まりました。

2009年6月帰国した折、安倍先生にお会いしました。UNICACHに2010年に来校して頂き、共演やマスタークラスをお願いし、チapasの教授と生徒の想いを打ち明けました。

2010年のチapas訪問は行いませんでしたが、2010年7月PaaX Percussion Trioが日本公演で来日した際、打楽器の教授であるIsrael Moreno / Roberto Hernandez Soto、学長のRoberto Dominguez Castellanos各氏を含め再度、安倍先生に招聘をお願いしました。2011年にチapas訪問の快諾をして下さいました。

一方、ここチapasは、マリンバのルーツで、マリンバと共に生きる生活があります。そんな背景の中、ラテンアメリカにおいて、クラシックマリンバの向上を目指すため、「第一回国際ラテンアメリカ・マリンバコンクール」を立ち上げました。安倍先生も審査員として参加して下さいました。

2011年3月26日（土）

日本からの飛行機が、早くメキシコシティに到着したので、予定していた国内より1便早い飛行機で、チapasに到着されました。予定より早い時間に到着したことを知らなかった私たちは、空港での歓迎メキシコマリンバ演奏の準備をしている最中でした。予定していた演奏セレモニーは急遽、ホテルですることになりました。長旅でお疲れの中でも、メキシコマリンバの音色に耳を傾けて、体を動かされていました。チapasに来て下さった喜びを皆で分かち合いました。

3月27日（日）

この日は、「第一回国際ラテンアメリカ・マリンバコンクール」の審査員である折まゆみさん（日本）、Anibal Borzone（アルゼンチン）、そしてGabriela Jimenez（メキシコ）各氏が続々とチapasに到着。いよいよ本格的に始まるぞ!と感じながら、主催者やUNICACHの先生と皆で、もう一度このプロジェクトを精製し一気話結しました。

3月28日（月）

第一回国際ラテンアメリカコンクール開会式と第1次審査



コンクール開会式

チapas州知事Juan Jose Sabines Guerrero氏が登壇。安倍先生にお会いしたいとの事で、開会式直前にUNICACH大学を訪問。チapas州の特色であるインディアン刺繍のバックをプレゼントされ、交流模様は、ニュースとしてメキシコ全州で放映されました。開会式会場である大学のコンサートホールCUID（通称：クイッド）は、放送局や地元メキシコマリンバ演奏者、コンクール参加者などで超満員となりました。メキシコマリンバの盛り上がり中、安倍先生が入場して、開会式の幕が開きました。

引き続き、チapas州政府機関（コネクト）のディレクターであるマルビン氏と、学長のあいさつがありました。学長は、「3月11日、東日本大震災で被害にあわれた人々の為に、黙とうをささげよう」と言われました。会場のみんなは静かに立ち上がり、メキシコから復興の願いを込めて祈りました。国は遠く離れていても、「人を思う心」がチapasにももてるのだと、私は胸が熱くなり感動しました。

次に安倍先生のお言葉です。
「第一回ラテンアメリカ・マリンバコンクールが、マリンバ音楽のルーツであるこの地、チapasで開催されることは、大変意味深く価値あるものだと思います。開催にあたりコネクトのディレクターであるマルビン・ロサーナ・アリアガ・コルドバ氏、ウニカチ学長であるロベルト・ドミンゲス・カステジャーノ氏、そしてマエストロ イスラエル・モレーノ氏に深く感謝申し上げます。私が初めてメキシコマリンバを聞いたのは、今から50年前、マリンバチapasというタイトルのLPでした。それはもう感動いたしました。なぜなら、その音楽には生活に基づいた躍動するリズムと、人間の持つせつない哀愁を運ぶ音楽だったからです。これこそマリンバのルーツだと思いました。今回、マリンバコンクールによってさらに国際化された形で全世界にこの豊実なチapasから発信されたら良いと思います。」



安倍先生の演奏

ラテンアメリカの偉大なマリンバ奏者たちのマリンバ芸術を受け継ぎ、クラシックの要素をプラスして、次世代のマリンバ奏者が世界に羽ばたいてほしいと思います。クラシック的なアプローチを新たな補い、そしてあなた方の持っている音楽性を兼ね備えれば、世界一のマリンバ奏者が生まれると信じています。このマリンバコンクールは、世界に向けての彼たちの目ざしだと思います。世界に大きく羽ばたくチャンスにしてほしいと思います。そして、私のマリンバに対する情熱を皆と共有し、生きてまいりたいと思います。グランドアス!」

安倍先生の言葉は、今でもチapasのマリンバ演奏者の心に残っています。いつかチapasから世界的マリンバ演奏者が生まれるのだという願いを一つずつ実現に向けて走り出しています。

コンクール第1次審査 一日目

コンクール参加者はメキシコを中心にコロンビアを含め約20名。初めてコンクールを受ける参加者達はとても緊張した様子でした。審査員はpresident審査員として安倍圭子先生。1次から準決勝の審査委員長としてIsrael Moreno, Gabriela Jimenez, 折まゆみ, Anibal Borzone, Miguel Pavia, 古徳景子の7名です。



コンクール審査員と参加者

第1次審査では3つのカテゴリーから1曲を選び演奏。初日は、安倍先生作品から始まりました。

One of the following pieces (categoria de los piezas, Keiko Abe)

- Michi Paraphrase
- Variations on Dowlands Lachrimae Patrum
- Memories of Sea shore
- Ancient Vase
- Wind in the Bamboo Groove

3月29日（火）コンクール第1次審査 2日目

アメリカヨーロッパ作品とラテンアメリカ作品のカテゴリーの中から1人2曲演奏。



コンクール参加者

ラテンアメリカの曲を演奏することが必須条件であり、このコンクールの特徴です。

One of the following pieces (Area de Europa y USA)

- Iljas / N.J. Zivkovic
- Strabo Scope / Erick Sammut
- Kingdon Love Fanfare / Mark Ford
- Astral Dance / Gordon Stout
- Dance from Prelude Scirocco / Michel Burrit

One of the following pieces (Area de Latin america)

- Tago for Gary / Saul Costantino

- Aunque me lleve el Diablo / Arr. Norberto Nandayapa
- Valencia / Ney Rosario

午前10時から15時過ぎまでコンクール審査は続き、その場で1次審査通過者を発表。ヨーロッパで行われているマリンバコンクールに比べ、参加者は少ない人数でしたが、他のコンクールに引けをとらないレベルだと思いました。その日の午後は、UNICACH大学と桐朋音楽学園の交流として、折まゆみさんがマリンバ科・打楽器科の生徒にネイ・ロウロ作曲の「Concerto No.1」を指導。そしてコンサートに向けてリハーサルを行いました。この2大学の交流は、今年の9月下旬、Israel Moreno, Keiko Kotaku, Roberto Hernandez Sotoが日本を訪れる際、桐朋音楽学園でチapasマリンバのマスタークラスを行う予定です。



安倍先生と共に

とて今回は、国際ラテンアメリカ・マリンバコンクールに安倍圭子先生を招いての続きとコンサートについてのエピソード中編をお届けいたします。それでは皆様またお会いできるまで〜Hasta la vista!

国際ラテンアメリカ・マリンバコンクール情報<http://www.concursoslatinoamericanosdemarinbaindistan.com/>

※不用となった楽器をまとめています。無償で寄贈される方がいらっしゃいます。下記のアドレスに御連絡をください。kotaku-keiko.com@gmail.com, home.ne.jp (エス・スガキマリンバ)

Profile



マリンバリスト 古徳景子

東京芸術大学卒業。ボストン音楽院ディプロマコースを経て、スウェーデン国立ビテオ音楽大学院演奏者資格。

日本、アメリカ、ベルギー、フランス、スウェーデン、メキシコ、アルゼンチン、オーストラリア 各地で演奏活動を行う。日本では教育機関の芸術鑑賞会・平和学習の場において、海外では訪問地の大学や日系人会などで演奏・対話・レクチャーをしている。マリンバを高橋美智子、神谷百子、Nancy Zeitman、打楽器を有賞誠門、高田みどり、Anders Astrand、Daniel Saur、作曲をJohn Farn 各氏に師事。

2009年1月よりメキシコ・チapas州立芸術科学大学のマリンバ科・打楽器科准教授として赴任。後進の指導にあたっている。